



悲願の夢の軌跡

コミュニバスぐるっと生瀬

皇太神社で行いました

予想以上の実績

○1年目の総括

- ・運行日数 土日祭日・1月3が日を除く**246日中の全日数を運行**
- ・利用状況 20599人 **1日平均83.7人**
- ・収支率 **88%**(運賃に対する運行経費のみ)

○分析・考察

- ・3年計画(1年目70人、2年目85人、3年目100人)の2年目に迫る勢い
- * **バスを中心にしたライフスタイルに移行**
買い物、病院などもバスの時間帯に合わせて外出
- * **リピーターではなく新しい客層への広がり**
近距離における車の不便、免許証を返納する人が増加
- * **運営に対する信頼感**
定時運行、乗客に対する乗務員の真摯な態度

各月の利用状況

	大人	小人	合計	日数	月平均
10月	1702	13	1715	21	81.7
11月	1522	2	1524	19	80.2
12月	1690	12	1702	22	79.4
1月	1521	15	1536	19	80.8
2月	1521	7	1528	20	76.4
3月	1784	17	1801	22	81.9
4月	1530	25	1555	20	77.8
5月	1640	6	1646	19	86.6
6月	1856	3	1859	22	84.5
7月	1820	12	1832	20	91.6
8月	1947	58	2005	22	91.1
9月	1893	2	1895	20	94.8
	20427	172	20599	246	83.7

本格運行に至る背景

- バラバラの地域(地形の条件、需要の規模、ニーズの内容)で、進める代表もバラバラ(全くの素人、必要性も少なく、目的も違う)で毎回かみ合わない会議ばかりしていたのに、
- しかも先進地域の講師やスタッフが口を揃えて「おそらくここではまともらない」と言い切っていたのに
- そして、実験でも思ったほどの成績が上がらず協議を続けた仲間も次々と去っていったのに
- どうして悲願だった住民の夢が実現できたのか

○振り返ると、奇跡としか思えない偶然と必然

1. 一つの自治会の大きな足跡
2. 9つの自治会がひとつになった理由
3. アドバイザーの熱意
4. 阪急タクシーとの出会いと市の本気度
5. 国土交通大臣賞の価値

○今後に向けて

5ヶ年計画とさらなる地域の活性化に向けて

青葉台の小さくて大きな取り組み



すべてはここから始まった

○青葉台有志のカーボランティア

- ・平成21年1月～4月、71日間で590人が利用
- ・マイカーを使用、ガソリンその他もすべて自己負担
- ・自治会に財政支援を拒否された失望

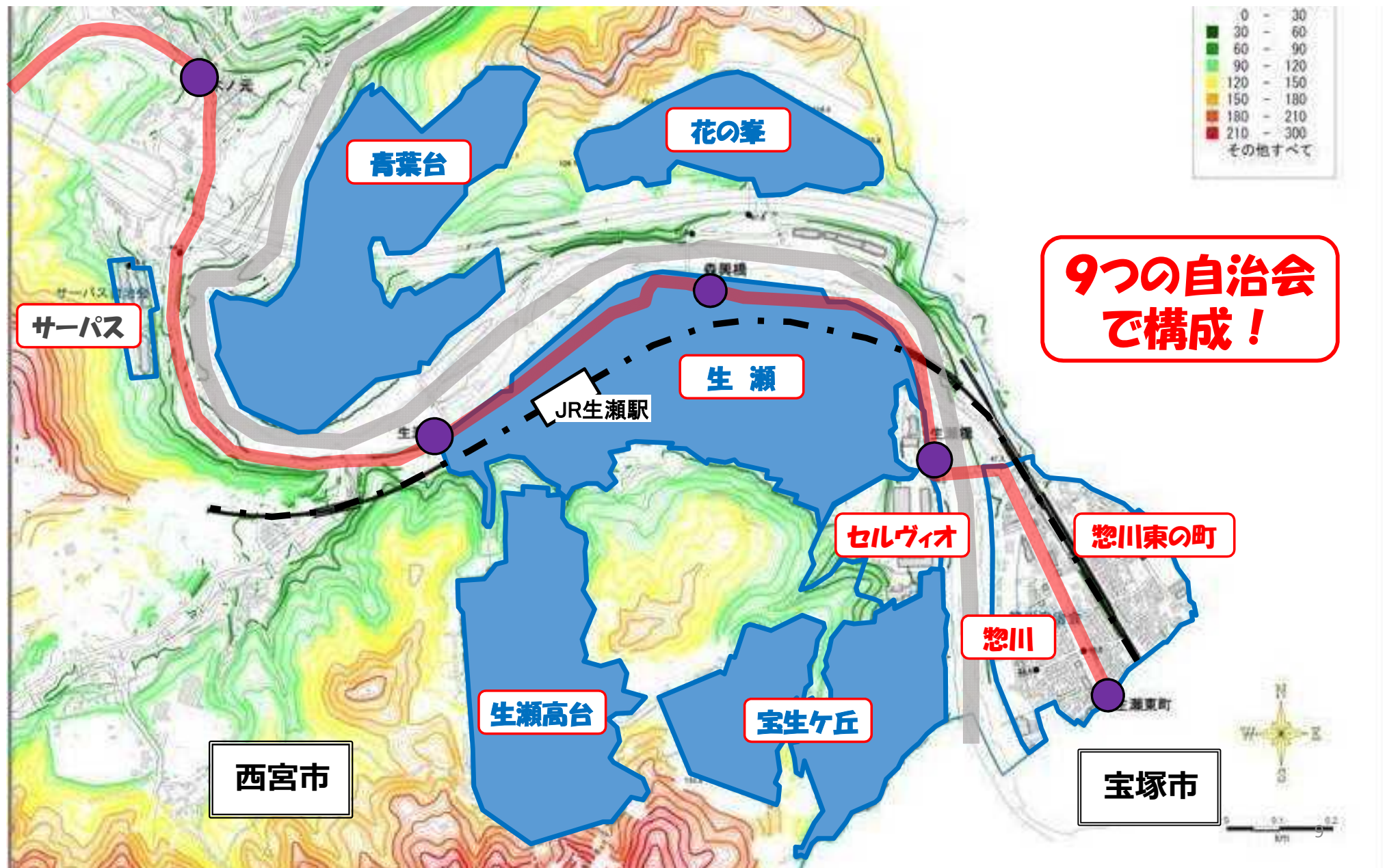
○カーボランティアの残したもの（失望が原動力に）

- ・自治会長会連絡協議会を通して市へ支援の要請
- ・調査研究費の助成を引き出し、交通諮問会議が発足
- ・平成25年 ぐるっと生瀬運行協議会（準備会）へとつながる

○公の精神はここから学んだ



9つの自治会
心は一つ



9つの自治会で構成！

地域が一つになった運営体制

○諮問会議(H23.10～)

- 5自治会の役員が3名ずつ出席(任期制で代表という意識は低い)
- 地域交通に関する意識の向上(研修会、先進視察、地域懇談会、無料社会実験)
- 運営主体、資金根拠、ルート、料金、その他で毎回紛糾

○運行協議会準備会(H25.4～)

- 諮問会議のメンバー15人から残ったのは6人
- ほかに地域諸団体(老人会、地区社協、その他)各代表から選出
- 途中から9自治会長と合同で開催
「わたしたちは利用しなくても、生瀬が豊かになるならいくらでも協力します」

○運行協議会(H26.5～)

- 諮問会議のメンバー5人が抜ける

理事長の決断

- 常任理事会(執行)と理事会(議決)の2段階の組織に改革
- 9自治会の代表が支えているだけに体制としては安泰



一 開会あいさつ
二 祝辞
三 乾杯
四 歓談
五 スピーチ
（生けの春を賞しめ）
六 PRソング唱和
七 歓談
八 閉会あいさつ

交通アドバイザーの熱意



2人の交通アドバイザーの功績

大阪大学大学院 准教授

猪井博澄氏

中央復建コンサルタンツ株式会社

山室良徳氏

○「生瀬方式」山室氏

＊「生瀬の取り組みは全国に例がない」

○「研究で終わってもいい」猪井氏

＊「夢は願わなくてはかなわない」

○唯一発足当時から係わってきた道しるべ（平成23年～）

○素人集団から議論のできる個々人の育成

＊休日返上で地域交通座談会、イベント、個人宅でも徹底議論

○市や阪急タクシーとの潤滑油



市の本気度(「公平性と検討」が常套手段の行政が)

○背中を押された3つの発言

- ・私を(市)を本気にさせてほしい
- ・目的は2つのほうがいい
- ・なぜ長期間やらないのか

○当初より一貫して変わらない支援方針

- ・収支不足分の補てんという担保

阪急タクシー株式会社との出会い(最初は断られたのに)

○プロポーザルと契約期間

○選択の根拠

- ・格安の条件、経営方針、大手という安心、地域性、宝塚への乗り入れ

○最良のパートナーとして

- ・会社ぐるみで支援、安全安心の運行、社員教育の徹底、緊急時の保障、乗降記録の提供、その他)



国土交通大臣賞の栄誉

受賞して分かったぐると生瀬の特色

受賞理由

地域住民が計画段階から主体的に関わり、有識者・交通事業者・行政等と協働のもとその地域にふさわしい、住民の目線で背丈にあった持続可能なコミュニティバスの運行を目指すとともにその運行を通じて、魅力的で活力ある地域の形成を目指す

- なぜ私たちがもらえるのかという戸惑い
- 全国でも数少ない事例という大きな自信と誇り
- 地域住民の喜びと期待
- 賞の重みと責任

ぐるっと生瀬の特色

○地域主体としての根拠1

1. ゼロから出発した先人たちに学んで
 - * 「公」を精神的支柱として
2. 地域ならではの決断
 - * 採算性、継続性を最優先した地域を2分するような苦渋の中で
3. ほとんどを地域が無償でしかも手作りで行う
 - * 運行計画、停留所の決定と住民の同意、地域説明会、苦情の窓口
業者の交渉、会報の定期発行、広告依頼、その他のPR活動

地域が主体となった根拠2（本格運行になってから）

○運行を円滑にするための地域活動

▪ 渋滞・遅延時の連携

利用者や乗務員の電話を受けて、停留所廻りや張り紙で通知する
または、**要所のポイントに立って走路変更の指示を行う**
（2月で1回、8月は4回）

▪ 凍結等による運休の恐れのある場合

早朝8時までには運行経路を試走し、路面状況を乗務員へ通報する
（1年目は3日）

▪ 忘れ物や苦情について

電話があればバスや会社に連絡を取って自宅まで届けている
（月に7～8件、8月は14件）

○利用促進活動

- ・事務所の開設
 - *毎週月曜の午前集会、企画立案、情報交換、周辺の清掃
- ・地域説明会の開催
 - *各自治会を巡回、事業説明や意見や希望を聴取
- ・宝塚駅で月一回（月初め）のキャンペーン
 - *ビラ配布、状況者への声掛け
- ・添乗サービス
 - *利用者間の交流のきっかけづくり、生の声を把握
- ・学校園、保育所訪問
 - *全校集会や卒業式入学式でPR、缶バッジの作成配布
 - *トライやるウィークにおける事業所として提供

- ・行事における啓発活動
 - *生瀬盆踊り、各自治会夏祭りでの模擬店
 - *敬老会、文化祭などでPR（替え歌披露）
- ・ニュースリリース
 - * 5大紙朝刊、NHK、ベイコム、その他
- ・自治会単位の支援
 - * 単独の時刻表、住居図に停留所、協賛金の寄付
- ・不動産業者との連携
 - * 時刻表の配布、チラシにぐるっと生瀬の掲載依頼
- ・バス車内における啓発
 - * 毎日の乗車数と合计数、目標数の掲示
 - * 掲示板による地域情報の広報
- ・他市との連携
 - * イベント等によるユルキャラの共演

今後に向けて

○運行計画の見直し

1. 現在5便を6便に増やして利便性を高める
2. 休日(土曜)の期間限定で試験運行を実施
3. 平成30年から5ヶ年の運行総合計画を実施(2両で運行)

○地域活性化の方策

1. 魅力ある町にするための運営
地域の1代表として、多くの会議に出席
自治会間の連携、伝統文化行事の復活支援
2. ユルキャラの活用
生瀬の新しい顔としてキャンペーン

ユルキャラの活用



○一般公募98点の中から4点に絞る

- ・市民協働課のパートナー事業と共同、2か月かけて地域の有志で作成

○反響の大きさは予想外

- ・デビューは西宮市民祭り、生瀬皇太神社の秋祭り
- ・地域行事や学校園、神社から出動要請が増加（年末のカウントダウン）

○ユルキャラの効果の可能性

- ・運行業務の充実
 - * 地域関係諸団体との連携
 - * 運営主体としての自治会間の緊密な連携
- ・地域活性化に大きく貢献
 - * 生瀬の新しい顔、イベントに欠かせないマスコット
 - * 郷土愛のはぐくみ、永住したい町へ

利用促進活動



実験は駅前の大通りで



平成26年3月





利用促進活動

本格運行は神社境内で



厳粛な雰囲気の中で
運行の安全と運営の安定を祈禱してもらいました



利用促進活動

2015・10・01は運行記念日

利用促進活動

行ってらっしゃーい

利用促進活動



市役所に研究に行きました



利用促進活動



事務所では 連日模型作り





利用促進活動



期限の中で必死で作業を続けました



利用促進活動

連れが連れを連れて

利用促進活動

とうとう

2ヶ月で完成

利用促進活動



PR用にいろんな演出を



利用促進活動



学校園はPRの宝庫



利用促進活動

アロハ保育園にて





利用促進活動

トライやるウィーク
中学生は将来の担い手

利用促進活動

盆踊りもPRの絶好の場です



生瀬
利用促進活動
仮装大会で対象と

仮装大会はPRの最大のチャンス



敬老の集い



利用促進活動



生瀬通り
Namazedori

地域活性化事業

JR生瀬駅前 派出所 生瀬支所に
七夕を飾りました





地域活性化事業

出前盆踊り



缶バッジの無料提供



自慢のドライバー

私たちにお任せください

自慢の広告塔



わたしを うーんと 売り込んでね

終わりに

○多くの賞に恥じない努力を

- ・国土交通大臣賞
（国土交通省 H28・7・29）
- ・明日の兵庫を創る生活活動賞 優秀賞
（兵庫県 企画県民部 県民生活課 H28・11・15）
- ・明日の日本 くらしづくり活動賞 振興奨励賞
（公益財団法人 明日の日本を創る協会 H28・12・3）